会報
青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会
白亜の会
二〇二四年　四月一三日　発行

四年ぶり！対面にて実施
第15回 白亜の会総会・懇親会

校友白亜の会会長　山口菜穂子

本日は、学期末のご多用の中、この対面での総会にご参会いただきましてありがとうございます。青山学院院長山本与志春先生、校友会副会長西田園江様、教職課程課課長山崎順子様をご来賓にお迎えし、このように総会を四年ぶりに開催できること、心より嬉しく、感謝しております。

さて、私は、二〇一九年二月の第一〇回総会において祢津前会長より新会長を仰せつかりました。

次の年、二〇二〇年二月一五日第一一回総会・懇親会はできましたが、二月末に学校の休校が決まった年です。そこから三年間、総会は書面総会とZOOMで、懇親会は中止となりました。

しかし、「白亜の会」の誇れる点は、教員採用試験対策講座補講の歩みを止めなかったことです。これは、まさに、「負けてたまるか！」の精神でした。

「負けてたまるか！作戦」といえば…青山学院大学箱根駅伝総合優勝！！おめでとうございます。今年のお正月は能登半島地震で多くの犠牲が出ました。改めまして哀悼の意を表します。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

そんな日本に元気をくれたニュースでした。素敵な素晴らしい後輩たちです。

コロナとの戦いは、五類になったことで日常が戻りつつあります。

今年度、令和五年度はメールによる論文指導を多く取り入れ、面接指導も一次合格者を対象に二次試験直前面接指導を実施しました。受講生も講師も熱くなる時間でした。受講生には、とても好評でした。更に、今年度は「先輩に学ぶ研修会」を一二月に開催いたしました。これから教員になるという四年生とこれから受験する三年生が現役の先輩教員の実践事例から学ぶという会です。大変意義深い会となり、今後も継続します。

今年度は受講生六二名。（不明者一八名。報告者四四名。）報告者のうち進路変更一名。合格者四〇名。不合格者三名。報告者の合格率は九三％！！素晴らしい結果でした。これは、不明者を除いていますので、ちょっとでき過ぎな数字です。不明者すべてを不合格としても、六六％となります。この数字でもかなりの手ごたえを感じています。講師の皆様のお蔭です。ありがとうございました。

二〇一九年に山本院長先生のご講演で、「Be the Difference　私たちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物をもっています」というお話を頂きました。青学は一人一人のもつ異なった賜物を大切にし、負けてたまるか！精神で積極的に自分たちの、皆の幸せ Well-Being を追い求めていく。それを支え、応援する白亜の会でいたいと思います。

「地の塩　世の光」今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

訃報

昨年九月一二日　本会初代会長小池角次郎先生が心不全でお亡くなりになりました。八十八歳でした。先生は、東京都教育委員会指導主事、世田谷区立梅が丘中学校長を歴任され、二〇〇九年の「白亜の会」の立ち上げにあたって多大なご尽力をいただきました。尊敬する小池先生のご冥福を心よりお祈り申し上げたいと存じます。

《講演会の記録》

二〇二四年三月二日　第一五回　総会　講演より

「日本式教育が世界を変える　～エジプト日本学校の実践～」

校友白亜の会常任幹事　鈴木　純一郎

ご紹介いただいたように、私は一九八八年の卒業で著名人では高橋克典さんらが同世代です。卒業後教員になり、校長十三年目になりますが、昨年まで三年間、エジプトで仕事をさせてもらいました。よく日本人学校ですかと聞かれるのですが、エジプトの子供が通い、エジプトの教員が仕事をしているエジプトの国立小学校です。その学校でのスーパーバイザー（ＳＶ）としての仕事をしました。

エジプトでは日本の教育のどんなことが注目されているのでしょうか。先日ＮＨＫのクローズアップ現代でも取り上げられたので、まずその映像を見ていただきます。（クローズアップ現代二〇二三年十二月六日放送「世界が注目！日本の教育『ＴＯＫＫＡＴＳＵ』特別活動の意義は？」）

〔動画の冒頭部分の内容〕

エジプトの首都カイロ。日本から一万キロも離れたこの学校で「ＴＯＫＫＡＴＳＵ」が行われているのは、なぜでしょう？

例えば、日直が仕切る「朝の会」。学校での手洗いの習慣。子供主体で取り組む「掃除」。高学年が学校のためにできることを考え実行する「委員会活動」。植物を植えきれいに飾る活動をする園芸委員会の様子が紹介されます。

こうした日本式のモデル校がこの六年で五十校以上に増加。応募は定員の数倍にのぼる。ある保護者はこう言います。「われわれの時代は軍隊のようでした。理解よりも暗記重視で、毎年の試験の点数が何よりも大事でした。この学校では人格的な教育をしている。これはエジプトでは新しいことです。」と。

そして、「学級会」の映像。「今日の議題は『クラスでやるゲームを決めよう』です」と学級会の話合いが紹介されます。先生が講義式で授業をするのが通常のエジプトで、子供が主導権を握る学級会は画期的な発想でした・・・。（以下紙数の関係で省略）

このようにして、エジプト中に広がりつつある「ＴＯＫＫＡＴＳＵ」と、教師たちが日本の学校への視察に訪れた様子が紹介されました。

（放送内容の記録は、こちらでご覧いただけます　https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4854/）

■　エジプト日本学校　ＥＪＳとは　■

ＥＪＳ（Egyptian Japanese School）は、エジプトのシシ大統領が日本の学校の様子に関心を示したことに始まります。

＊日本を手本に国を変えたい
＊日本の学校教育システムをエジプトに導入し定着させる
＊エジプトのＴＯＫＫＡＴＳＵ（特別活動）を作りたい

シシ大統領

二〇一六年「エジプト日本パートナーシップ」が締結されます。日本式教育を進めるモデル校が設置され、国立大学「エジプト日本科学技術大学」も設置されました。

二〇一八年九月にＥＪＳの小学校三五校が開校。私が行ったのはその三年目なので三年生までしかいない学校でしたが、その下に幼稚園部もありました。そして、二〇二三年度は六年生まで揃って委員会活動も始まっています。

日本人の校長が一〇〇人派遣される計画で、私もその一人でした。赴任の前に大統領に招かれてお会いすることになったのですが、入ると正面に大統領が立っておられパッと手を出されて握手をして、震えるほどドキドキしながら代表でＴＯＫＫＡＴＳＵについてプレゼンをしたのです。

これは、エジプトの地図で緑のところがデルタ地帯で田んぼも畑もあるんですね。青い丸のところにエジプト日本学校が五一校点在しているのです。ＳＶとして勤務した三年間には、首都カイロの開発地域、地中海沿岸のガマサ、北部田園地帯のバニエベイド、運河河口の町スエズなどをはじめ様々な地域の学校に勤務しました。それぞれ特色ある催し等が行われていますが、下記のようにＥＪＳ全校共通の「ＴＯＫＫＡＴＳＵ」が確実に実践されています。

ＥＪＳ全校共通のＴＯＫＫＡＴＳＵ実践

・学級会（話合い活動）
・日直の仕事
・そうじ当番
・朝の会、帰りの会
・係活動
・集会
・学級指導
・学校行事
・児童会活動
・クラブ活動

今年の九月からは中学校も開校するので、人間関係形成、社会参画、自己実現の三つの視点をおさえながら、エジプト日本学校でも日本と同じような特別活動を実践していきます。

日本でもなかなか、研究校でなく特別活動があまり大切にされていない学校もみられますので、逆にエジプトの方が進んでいるなという印象もあります。

■日本人スーパーバイザー（ＳＶ）の職務■

私たちスーパーバイザーの職務ですが、私たちが直接教えること、見て学んでもらうことが大事になります。教え方もエジプトは教え込みや暗記中心の学習スタイルなので、それを子供たちが話し合って決めたり、相談して確認したりしていく子供中心の授業スタイルに変えていく人材育成が重要でした。

・ＥＪＳ各校における日本式教育の推進
・校長の学校運営のサポート
・校長、副校長および教員の人材育成
・教員研修の企画、実施
・ＥＪＳ各校の実践の報告、成果と課題の提示
等々

掃除を子供たちがすることの意義についてもたくさん教えました。

「掃除は業者の仕事、なぜうちの子に掃除をさせるのか」という認識の保護者や先生方に、なぜ子供たちにとって掃除をすることが大切かを理解してもらえるように伝えました。

「そうじ」を児童が行うことの意義

○友達と協力して仕事に取り組む姿勢
○困っている友達を自分から進んで助ける態度
○使ったものを片づけ、整理整頓の態度
○教室や廊下をきれいにし、気持ちよく生活
○学校のみんなの役に立っていることを知る
○自分たちで掃除をすることで責任感をもつ
○家庭や町でそうじに関心をもって働く態度

今では子供たちが掃除の大切さを理解して進んで掃除をしています。家庭でも掃除をするので保護者から喜ばれるようになりました。

学級会では、日本のスタイルを参考にして顔が見

えるように座り、話合い活動が行われています。話合い活動を通して、以下のような資質・能力・態度が育まれることが期待されます。

○目標を達成するために自分の考えをもとうとする態度を育む。
○他者の考えを理解し、人の立場に立って考える姿勢を育む。
○多様な考えを理解し、受け入れる態度を育む。
○話合いの進め方を理解し、司会グループの仕事の仕方を身に付ける。

この写真は、日直です。幼稚園の子から日直の仕事をします。物を配ったり、出席のチェックをしたりします。先生たちも交代で日直をして、職員室の打ち合わせをします。

日直の仕事を通して育まれる資質・能力・態度

○責任をもって仕事をする。「責任感」を育む。
○友達やクラスのために、仕事をする。「自己有用感」を高める。
○自分の仕事の様子を振り返る。次の機会や他の仕事に経験を生かす。
○自分の仕事の様子を振り返る。よりよい仕事を目指そうとする「向上心」を育む。
○友達の仕事の様子を見て、自分が仕事をするときの参考にする。
○仕事の大変さや苦労を実感し、仕事をする人への「思いやりの心」を育む。
○家庭や地域社会において、進んで仕事をしようとする態度を育む。

体力の向上を目指す活動や音楽の授業の充実を目指す支援も行っています。

全校にリコーダーが支給されて、リコーダーの授業の仕方をヤマハの講師がオンラインでエジプトの教員に指導します。エジプトの音楽の先生は、教員でなくミュージシャンなので子供への指導法を伝えていました。

様々な仕事について学ぶ体験活動も行っています。

《ＥＪＳの特別活動》

さまざまな活動をＴＯＫＫＡＴＳＵとして行っていますが、すべて「ゼロからの出発」「ゼロからの創造」です。子供たちはもちろん、先生たちも知らないことを学びながら教えるということでした。

「予定は未定、未定が予定」エジプトでは、スケジュールを立てるのがとても苦手なのですね。生活時程の中で授業をすることや行事の練習や準備の計画を立てることを伝える必要がありました。

しかし、何をするにもとてもエネルギッシュで、全スタッフ、全保護者が一つになって、みんなで喜んで誕生日などを祝うファミリーの雰囲気があります。

《ＥＪＳの学校行事》

・9月になると**入学式**があります。
・**全校朝会　・新入生歓迎会　・学年発表会**などで、列に並ぶこともひと苦労ですので、ポイントを打ってまっすぐ並ぶ練習も必要です。

大きい子が小さいこの面倒を見る姿はとても自然で、最上級生の四年生の子が新しい一年生の世話をします。

・**スポーツデー（運動会）**では先生が必死にソーラン節を練習して、子供たちに教えています。（写真）スローガンを書いたり保護者も参加したりして一緒に楽しむ姿は変わりません。

用意した綱引きの綱がとても細くて切れてしまいましたが気にせず、楽しんでいました。

・**作品展**
・**卒園式**　大学生の格好をして卒園式

に参加します。

・**年度末の発表会**は、涼しい夕方からはじまり夜中の一二時頃まで楽しむ学校もあります。

・**ジャパンデー**といって日本の文化や食事などを体験する行事もありました。着物を着て、日本の紹介をしています。私はお好み焼きを作ったらみなさんにとても喜ばれました。

・カイロ日本人学校と運動会を行う**交流行事**もありました。

・**避難訓練**では、並んで静かに避難することが大切ですが、体験がないので、先生方も走れ走れと言ってました。地震が少ない国なのでので…。校長先生はよくできましたね、と話をしていました。

■　世界から見た日本式教育　■

日本式教育が世界を変える、ということで行われている様々な取組みの例として、エジプト日本学校の実践を紹介いたします。

◎TOKKATSU OFFICER（TOKKATSUを推進するための指導主事）の育成
◎TOKKATSU OFFICERの「認証制度」確立
◎大学教員養成課程でのTOKKATSUの履修必修
◎教員の国内TOKKATSU研修の充実
◎日本国内での教員派遣研修の実施

特活推進の指導主事を育成し、認証することで、形だけ真似た特活でなく、意義やねらいをきちんと踏まえた指導のできる教員を国内全体に広めることを目指しています。

また、日本への教員派遣研修も実施しています。

ＥＪＳ教員の日本国内研修

・エジプト人教員が来日し、日本国内の学校等で実際の日本式教育を学ぶ研修
・五月　特別活動を専門とする指導主事二〇名が来日し、四週間にわたる研修を実施
・九月　特別活動を指導する教員四〇名が来日し、四週間にわたる研修を実施
・一月　校長、副校長四〇名が来日し、四週間にわたる研修を実施

これまでは国家レベルの視察団でしたが、昨年九月には、エジプトの一般の教員が貝取小に見学に来ました。毎回五〇人もの教員がバスで見に来るので、子供たちは日常の姿でのびのび自然に話合い活動をしていました。

また、**ＪＩＣＡ**による関東近郊の学校や大学の見学も行われており、この日は「学級目標を達成しよう」という話合い活動を参観しました。日本の協調性や道徳性を導入しようと日本式教育の実践を直接見に来ているのです。

歓迎レセプションでは、子供たちがエジプトの国歌「わが祖国」や「さくらさくら」を合唱すると感激し涙する姿もありました。今年度三回の視察が行われました。

《エジプト日本学校における
日本式教育実践の成果》

日本式教育実践のなかで、まず教師の姿勢が大きく変わりました。

教員に見られる変化

・教師による教え込み授業スタイルから、児童主体の授業へ
・形だけでなくTOKKATSUの個々の活動の意義を理解した指導へ
・時間やルールを守った勤務態度
・保護者や地域との連携

子供たちは学校大好きに

子供たちに見られる変化

・学校は楽しいところ
・自分の考えをしっかりともち、伝える力の育成
・自分のことは自分で行おうとする意識の高まり
・自分の役割に責任をもち、人のために働くことの楽しさ

子供たちの変容を見て保護者が変わりました。

保護者に見られる変化

・子供が掃除をすることの理解
・TOKKATSUによる児童の変化への喜び
・家庭における子供の役割の拡大
・社会のルールを子供から学ぶ保護者

エジプト以外の各国でも日本式教育が注目されています。

エジプトのほか、モンゴル、マレーシア、サウジアラビアなど様々な国や地域で、TOKKATSUをはじめとする日本式の教育実践がそれぞれの国の教育に導入され、または導入が検討されています。

《EDU-PORT ニッポン》

エデュポート ニッポンは、官民協働のオールジャパンで日本型教育の海外展開を推進する事業で、平成二八年度から世界三八の国と地域で実施しています。

私も昨年帰国してからは、こちらの活動に加わってお手伝いをしています。今年の年末年始には、エジプトに行って現地の先生方と日本から行っている先生方との交流を深めるためにソーシャルスキルをしたり、模擬学級会をしたり、楽しく意義のある研修会をもつことができました。

《安易な縮減に「待った」、新時代の特活を》

世界から注目され、教育改革の手本とされる日本式教育の柱「特別活動」ですが・・・

日本国内では、「教員の働き方改革」の推進により、教員の負担軽減につながる策として、特に学校行事の縮小、削減が加速しています。また、コロナ禍の三年間・・・活動できなかった特別活動の実践は何だったのか。なくしてはならない活動は何であったのか。運動会の縮小などで、子供たちが育っていたはずのことがなくなっています。コロナが終息した今、日本の特活はどのようにしたらよいのでしょうか。

エジプトの特活が広まっていく今、日本の特活が縮小していく傾向にあることは大きな問題です。エジプトは自分の国の特別活動を自分の国なりにアレンジしています。そのアレンジで学ぶところがたくさんあります。

TOKKATSUがエジプトをはじめとする世界の国々に根付き、それぞれの国独自の特別活動として発展していく中で、日本は今TOKKATSUから学び、新しい特別活動を創造していく時期を迎えています。

世界を変える日本式教育のよさを見つめなおし、世界各地にTOKKATSUが広まりつつあることの意義を強く受け止めて、これからの時代にふさわしい教育実践を重ねていきましょう。

◇◆◇

総会及び懇親会のご報告

二〇二四年三月二日（土）。久しぶりに対面、オンライン併用の「総会」を開催することができました。すべての議案を、ご参会の皆様にご承認いただきましたことを、ご報告いたします。総会終了後には、鈴木純一郎先生よりご講演いただきました。（2～6頁掲載）続く「懇親会」には、二七名の方にご参加いただきました。ご多用の中、引き続き三名のご来賓の皆様にご出席いただき、和やかな雰囲気の中、それぞれの近況を知り得る貴重なひとときとなりました。中でも、今年度の合格者三名の発言が印象的でした。子供や生徒と共に創る明日に、希望と期待を抱いていることがひしひしと伝わりました。また白亜の会への感謝もあり、改めて「白亜の会」の意義と果たすべき役割を再確認いたしました。

ご参会くださいました皆様、心より感謝申し上げます。